

東京国立博物館 春の庭園開放

2016年3月7日
アーバンインフォメーション
東急沿線情報新聞

03-5777-8600

上野にある東京国立博物館は70歳以上は入場無料、年齢を証明するもの持参のこと。
博物館本館北側の庭園は普段はクローズですが、
年に2回、春の桜の時期と、秋の紅葉の時期のみ、期間限定で庭園が解放されます。



本館北側の庭園を公開します。由緒ある5棟の茶室が点在する庭園を散策してみませんか。
ソメイヨシノをはじめ、オオシマザクラ、ヤエベニヒガン、エドヒガンシダレなど、
10種類もの桜が次々と開花する庭園は、1年でもっとも美しい花の園になります。

**2016年、春の庭園開放は
3月15日(火)～4月17日(日) 午前10時～午後4時**

3/25(金)と4/1(金)、8(金)は午後7時半まで時間を延長しライトアップも実施予定

庭園開放に合わせ、3/15(火)～4/10(日)、各種イベントの「博物館でお花見を」も開催。
桜をモチーフにした作品の展示・解説、ギャラリートーク、セミナー、茶会、ガイドツアー、スタンプラリーなどを予定。



応挙館 おうきょかん

尾張国(現在の愛知県大治町)の天台宗寺院、明眼院(みょうげんいん)の書院として寛保2年(1742)に建てられ、後に東京品川の益田孝(鈍翁・1848～1938)邸内に移築、昭和8年(1933)当館に寄贈され、現在の位置に移されました。室内に描かれている墨画は、天明4年(1784)、円山応挙(まるやまおうきょ、1733～1795)が明眼院に眼病で滞留していた際に揮毫したものであると伝えられています。松竹梅を描いた床張付がのこされています。



六窓庵 ろくそうあん

慶安年間(1648～1652)に奈良の興福寺慈眼院(じげんいん)に建てられたもので、もとは興福寺大乗院内にあり現在奈良国立博物館に移された八窓庵、東大寺塔頭四聖房の隠岐録(おきろく)とともに大和の三茶室といわれました。



転合庵 てんごうあん

小堀遠州(こぼりえんしゅう 1579～1647)が桂宮から茶入「於大名(おだいみょう)」を賜った折、その披露のために京都伏見の六地藏に建てた茶室です。

九条館 くじょうかん



もと京都御所内の九条邸にあったものを東京赤坂の九条邸に移した建築で、当主の居室として使われていました。昭和9年(1934)九条家から寄贈され、現在の位置に移築されました。

九条館

応挙館

六窓庵

転合庵

春草庵



春草庵 しゅんそうろ

江戸時代、河村瑞賢(かわむらざいけん 1618～1699)が摂津淀川改修工事の際に建てた休憩所で、その後大阪へ、さらに原三溪(1863～1939)によって横浜の三溪園に移され、昭和12年(1937)に埼玉県所沢市にある松永安左衛門(耳庵・1875～1971)の柳瀬荘内に移築されました。

